

2022年6月1日からの
国会請願国賠署名、同盟員拡大到達表 2022.12.1 現在

支 部	国賠署名		同盟拡大	
	目 標	到 達	目 標	到 達
岡 山	7,000	1,696	200	231
備 南	2,500	154	80	52
美 作	800	275	50	34
玉 野	700		20	20
県 計	10,000	2,110	350	337

治安維持法国賠同盟 第35回県本部大会の報告

県事務局次長

小林治彰

県本部大会は11月13日、労働福祉会館で開催。大会ではこの間、

亡くなった四名の同盟員の黙とうを行い、日本共産党県委員会の森脇久紀副委員長、氏平三穂子県議、国民救援会県本部の山崎正士事務局次長のあいさつを受け、坪井貞夫副会長を議長に選出しました。河井伸士会長代行が情勢を報告し、前川守事務局長がこの間の活動の経験と教訓、当面する課題を提案しました。その後、財政報告、会計監査報告を行い、支部活動の経験では美作支部から「伊藤千代子の上映会を通じて国賠同盟の活



岡山県版

No. 320

2022年12月15日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

岡山県本部

〒710-0131

倉敷市天城台

4 - 7-12 福井方

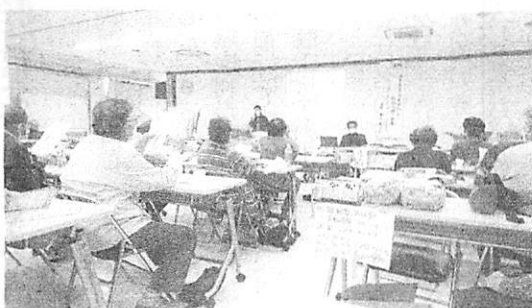
振替 01300-4-99361

mail : family-fukui@
khf.biglobe.ne.jp

動が他の民主団体にも評価され、署名活動にはずみがついている。同時の上映会を開いた真庭市では新たに3名の会員が増え、支部発足の展望がでてきている」との発言がありました。

記念講演は近代社会運動史の研究者活動家の本庄豊氏を京都からまねいての講演で

す。演題は「山宣と内山完造・美喜」。本庄さんは「山宣」の研究者としても著名ですが上海で「内山書店」を開き、中国の革命家との交友が深かった岡山出身の内山完造氏をテーマに「京都と岡山を



つなぐ社会運動」を語りました。内山完造・美喜夫妻と山宣がこでつながったのか、それに連なる多彩な社会活動家を掘り起こし、戦前の活動家群像が今につながることを縦横に語られました。知的興奮を感じる講演でした。



会 長 河井伸士
副会長 坪井貞夫 前川守
中西孝 氏平三穂子
事務局長 福井正樹
事務局次長 小林治彰

「平和と暮らしを破壊する軍事費倍増反対！」
「今こそ 9条を生かす新しい政治を！」
「治安維持法体制を清算するための国民運動を！」

全国女性交流集會に参加して

備前支部 谷口洋子

一月六日、七日に熱海で全国女性交流集會が開かれ、各地の活動を持ち寄り、学ぼうと一〇〇余名が交流しました。

私は初参加でしたが女性のパワーあふれる集會でした。記念講演の田村智子さんは日本共産党の中央委員会副委員長。大学の授業料値上げ反対運動からはじまった自身の成長過程での悩み、不安をのりこえてきたあゆみを丁寧に語り、一緒に成長していきましよう」と熱く語りました。

沖縄からの報告には連帯の熱い拍手が送られました。

「JALの争議はまだ終わっていません。納得のいく解決を求めて闘いを続けます。」の訴えにはJAL当局と資本側の卑劣な労働者に対する分断攻撃に屈せず、労働者の根幹にかかわる重要な基本的人権を守り、闘いとるための人間としての誇りに満ちた感動的な訴えでした。まさに現代の「伊藤千代子」像でした。

分科会では映画「わが青春つぎる

とも「伊藤千代子の生涯」上映運動とジェンダー平等に参加しました。各県のような努力と工夫で上映されているこの運動は「感激した。知らなかった。涙があふれた」などの声が主催者を励まし治安維持法同盟の枠を超えて広がっている素晴らしい経験が報告されました。

今後の課題としてアフターケアが必要だとの指摘がありました。絶対的権力の天皇制と今の象徴天皇制の違い、時代背景の説明、今の若者世代への訴え方、同盟への組織化など。

同宿した島津泰子さんとの出会いにも大きな刺激をうけました。エスペラントを学び、日本だけでなく、世界中のエスペランティストと交流しているエネルギーシユな生き方に大きく背中をおされました。準備された皆さんに感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。

映画「わが青春つぎるとも・伊藤千代子の生涯」

信念貫く生き方の感動—新見上映会

実行委員会 笹井勇一

一月三日、映画「わが青春つぎるとも・伊藤千代子の生涯」上映会を開催しました。

戦争と暗黒政治、無権力の時代に反戦と主権在民を掲げて闘い、二四歳で獄死した伊藤千代子の生涯を描いた映画です。

当日は雨の中を五八名の方が観賞し大変な感動を与えました。事前の「製作・上映協力券」は一六八名の方が購入し募金も寄せられました。実行委員会はそれまでに5回行い、上映協力券の販売に力をいれました。

又、上映会前日に映写技師さんが急病で入院する事態も生まれ、映写機の借り入れ、代理の映写技師の確保と大変でしたが実行委員会のメンバーで協力しあって無事、上映会を終えることができました。この映画は大変な感動、共感を呼び感想文も過半数の方から寄せられました。「残酷な拷問に負けず、信念を貫く生き方に感動」「戦前の治安維持法は共産党をひ

11月

事務局日誌

2日 県本部役員会

3日 玉野支部役員会／玉野市「安倍政治許すな」宣伝

5日 美作支部役員会

6日 新見市実行委員会「小山博通」偲ぶ会

11日 「不屈」発送作業

13日 第35回県本部大会 本庄豊 講演会

新見市映画「わが青春つぎるとも」上映会

15日 備前支部役員会

会費集金 署名要請行動岡山支部役員会

18日 中国五県 活動交流会議

26日 美作支部大会

27日 赤磐「赤旗まつり」

女性部
だより

治安維持法国語司盟
県本部大会記念講演
——「山宣（やません）」と内山完造・美喜——

瀬戸内市 島津泰子

県本部大会記念講演会は 近代

日本社会運動史を研究する活動家の
本庄豊氏の講演でし
た。

演題は、「山本宣治と
内山完造・美喜—京都と



内山完造先生没後50周年記念事業
「山本宣治と内山完造・美喜」講演会

岡山をつなぐ社会運動」。

片山潜 碑前祭に参加して

県本部会長 河井伸士

一月三日、久米南町羽出本で
碑前祭とこの1年間になくなった
党員の合葬式がおこなわれまし
た。今年は一三名の方が合葬され
ました。

私は治安維持法同盟岡山県
本部を代表して参加し挨拶をした。

片山潜さんは反戦・平和のため
に活動しましたが一九一四年に出
国してから一度も日本に帰ること
ができませんでした。それほど、

戦前は日本共産党に対する弾圧は
厳しかったのです。一九二五年か
ら「治安維持法体制」となります。
再び、このような世の中にしては
いけないと思います。合葬者お遺
族を代表して美咲町柵原の大神式
之さんの妻、千鶴子さんがあいさ
つをされました。その後、誕生寺
で懇親会が開かれました。お寺の
紅葉と大イチョウがとてもきれい
でした。

年ぐらい前に上海の「内山書店」
に寄られたそうです。

本庄豊さんの講演は山本宣治の
功績や暗殺の黒幕とともに当時、
彼を取り巻く人々に心を寄せての
お話でした。内山完造と美喜、島
崎藤村の姪、島崎こまこ、村田佳
久、南山城の活動家たちです。

また内山夫妻がキリスト教の洗
礼を受けていたことから、「宗教と
はなにか、カルトとは何か」につ
いても語り、反共カルト集団の統
一協会のカルト性や、岡山ゆかり
の金光教、黒住教、また大本教に
ついてふれられました。また群
馬の（日本山妙法寺僧で日本共産

国民救援会高梁支部が難波英夫碑前祭を開催

日本国民救援会高梁支部は二一
月一日、同市成羽町に建立の難
波英夫記念碑園で一九人が参列し
て碑前祭を行いました。

碑前祭では、治安維持法の弾圧
に屈せず、国民救援会会長などを
務め、生涯を人権と民主主義発展
のために尽くした難波英夫さん偲
ぶとともに、遺志を受け継いでた
たかうことを決意しながら献花し

党员であった、西本あつしについ
ても研究されており、彼は東京夢
の島から広島までの平和行進を最
初にたった一人で歩いた人です。

本庄氏は群馬、京都、高知で平
和社会活動に命を燃やした人々の
研究をされています。「戦争孤児」
という本も出版されており、学生
に戦争時代を思い浮かべることが
出来る教材として、役立てておら
れるそうです。「孤児救済で有名
な石井十次と大原孫三郎について
研究したい」「次は岡山を研究場
所にしようと思う」と、嬉しい期
待を私たちに持たせて講演を結ば
れました。

ました。

碑前祭には、
救援会岡山県本
部事務局長・竹
原正樹さん、日
本共産党高梁市
議会議員・石部
誠さんも参列し
て挨拶しまし
た。



治安維持法下の闘い

暗い時代を闘いぬいた難波孝夫と久代

難波孝夫の想い出

一九〇二年生まれの難波孝夫は

難波英夫の実弟でマルクス主義の立場から農業・農民問題に取り組んでいた。難波孝夫は耳が



遠く、密談ができないのが玉のきずだった。

難波孝夫は二〇代から小作争議を指導した経験を持つ農民運動の左翼活動家で板野勝次とは特に親しい間柄だった。

戦後、難波孝夫は日本共産党に入党して、後月郡共和村（現在の井原市芳井町下嶋）で結核の病牀をおして党活動、農民運動に奮闘していた。板野勝次が難波孝夫と再会したのは参院議員として国会報告に芳井町を訪れた時だった。それが再会の最初で最後となった。結核が悪化して一九五一年（昭

和二〇）八月、五〇歳で死去した。

孝夫には三人の子供があり、妻の久代は二年前に四一歳で死去していた。長女の素恵美、長男の譲、次男が捧である。素恵美はその後、党の活動家、田平金広との恋愛が実を結び、板野勝次は難波英夫から二人の媒酌人を依頼された。

一九五九年に高梁の頼久寺で党西北地区委員会の活動家が集まって祝った。田平青年は板野勝次宅にいつも出入りしていた青年活動家である。この日から難波金広になった。後に共産党の町議として川上町で奮闘し、県議選挙、複数町議席にも挑戦し、川上町に党の旗を掲げて長い間、奮闘した。

女性活動家の先駆者、難波久代

難波久代は共和村下嶋に一九〇九年に生まれた。一九二六年頃から岡山市で日農婦人部の活動に参加し、一九二七年には「婦人の政党加入の自由」「婦人参政権の獲得」「男女不平等法律の撤



廃」などを掲げる岡山県婦人同盟が創立された時、書記長に選出されている。難波孝夫と久代は一九二八・三・一五弾圧の後、上京し難波英夫を助けてマルクス書房の運営に参加し、空襲で家を燃失してから久代の故郷、下嶋に疎開した。久代は夫を助けて暗い時代

を闘いぬき、日本共産党に入党。下嶋に党細胞をつくり、「アカハタ」分局としてこの地域に六八部の読者をつくった。一九四九年に結核が悪化して乳飲み子だった次男と長女、長男をのこして四一歳で死去した。葬儀には地域のひと

たちが大勢、参列してその死を惜しんだ。難波孝夫は乳飲み子だった次男の捧を難波英夫夫婦に預け、貧窮の中にあつたが教員になった長女の素恵美が「父の窮状を思い、給料日にはその足で下嶋まで五里の山道を歩いて父の家に

帰った」という。

「我は故郷の草わけ戦士なり」と刻まれた難波孝夫、久代の碑

板野勝次は難波孝夫について「戦前、岡山県無産青年団体協議会委員長だったことと『三・一五弾圧』で検挙され、兄の英夫が地下活動に入り、上京してマルクス書房の経営に参加したまでしか、その足跡はわからない。

戦後、再開した時に懐旧談などできる余裕もなかったことが口惜しく思う。

難波孝夫は優れた才能を持ちながらその才能を発揮できないまま、若くしてその生涯を閉じた。私にとってその哀惜と追憶の情は耐え難いものがある」と語っている。

（板野勝次著「風雪に耐えた歲月」から）

